

U-Home

U-Home

だより

〒708-1222
岡山県津山市西中 329-1

株式会社 **U-Home**

TEL 0868-36-4372

FAX 0868-36-4498

✉ u-home@mx1.tvt.ne.jp

第 63 号

前号で、今年は夏から秋にかけてラニーニャが発生するから、日本は非常に暑くなると書きました。確かにお盆頃からは非常に暑くなり、このまま9月いっぱいには真夏が続くんだらうかとうんざりしていました。ところが、猛暑は8月までで9月になると今度は長雨。これまた、いったいいつまで続くんだらうかと思うほど、毎日毎日降り続けました。ちょうど稲の刈入れ時期で大変だった方も多かったのではないのでしょうか。



この長雨の影響による野菜の不出来は深刻で、相次いで台風が上陸した東日本の不作と相まって、この後日本国中で野菜の高騰をもたらしました。マスコミで連日野菜不足だとはやし立てるから、通常はあまり野菜を好きではない人たちまで危機感を感じ消費に走り、さらなる野菜不足や高騰を呼んでいると思うのですが、真相はいかに。この野菜高騰は年末まで続くのでした。

今日は10月24日、もう一週間もすれば11月になろうというのに、上着を着たのは朝のうちだけで、あとはずっと半袖で過ごしています。なかなか気づきにくいのですが、温暖化の影響でしょうか相対に気温の高い状態が続いているような気がします。

この前（10月21日午後2時過ぎ）の鳥取中部地震はびっくりしましたね。それ以前から鳥取県の中中部で小さい地震が頻繁に起きていました。21日のお昼頃にも震度1程度の地震があったので、「このところ良く地震が起きるなあ」と話していた矢先です。



事務所に居た私は思わず外に飛び出しましたが、周りの建物や木々も明らかに揺れていました。揺れの大きさは「阪神淡路大震災」の時より今回の方が大きかったような？おそらく私が今まで経験した中で最大だったんじゃないのでしょうか。しかし、これでたった『震度4』です。

震度5～震度6の揺れならいったいどんなにひどく揺れるのでしょうか？まして震度7なら、地面ごとひっくり返ったと錯覚するほどの揺れではないのでしょうか。

鳥取県中部地方では震度6弱、岡山県北部の一部でも震度5強ありました。揺れの特徴は、周期が0.4秒前後の短周期の成分が卓越しており、木造家屋の倒壊に結びつく周期1～2秒の揺れの成分は少なく、屋根瓦などの小構造物の被害が多いものの、家屋の倒壊は少なかったと分析されています。それでも住宅の全壊が12棟、半壊が95棟、一部損壊が12,525棟というから、やはり震度6弱の地震はものすごい影響があります。この上に震度6強、それ以上の震度7という階級があるのだから、それらが起こったらと想像するだけで恐ろしくなります。

岡山県には、兵庫県から岡山県北東部に至る「山崎断層帯」、奈義町～津山市北部～鏡野町に至る「那岐山断層帯」、鏡野町北部から鳥取県中部に至る「大立断層・田代峠一布江断層」があります。

そして今年、津山市奥津川から奈義町関本に至る全長10kmの『声ヶ峠断層』が見つかりました。声ヶ峠は那岐山の西、爪ヶ城と山形仙の間にある峠です。会社から北を見るとすぐそこに見えるところにあります。



考えてみれば岡山県北東部のこの地は地震の巣窟みたいなところですよ。
あな恐ろしや！

南海トラフを震源とする大地震が差し迫っているといわれます。最悪のシナリオでは33万人の死者を出すとの試算もされています。

地震に対して人の命を守るためには、とりあえず住宅が倒壊しないことが非常に重要になります。震源に近い愛知県では、より安価にできる住宅の耐震工法が次々に開発されています。住宅の耐震診断と先進県の耐震化工法を学ぶ講習会に7月6日と7月29日に行ってきました。

以下は興味のない人には少しも面白くないので読み飛ばしてください。といっても今回は地震の話題だけかも？

9月1日は「防災の日」でした。防災の日は、大正12年9月1日に関東大震災が起きた日、また二百十日が古くから台風が多いとされてきた日に由来しています。

国民が防災や災害についての知識を高め、地震・台風・洪水・大雪・噴火・竜巻などによる被害を最小限にとどめるために日頃からできることを確認しようという日でした。

災害が起こった時は何をするか？

災害が起こった時のために、水や食料の備蓄をしましょう！とはよく聞くことです。そのほか、非常持出袋・避難先の確認・家族の連絡方法・集合場所……。その前に地震ではまず家具の転倒防止措置。避難中に家の中で怪我や捻挫や骨折などをした時にはどうしよう？携帯電話の電池が切れたら？（電話帳すら見られなくなる）予備薬と保険証とお薬手帳はとっさの時に持ち出せるか？避難先で着替えなどはどうしよう？もう考えればきりがありません。

さて我が家はどうだろうか言う、多くの方々と同じでほとんど何も考えてないというのが現状です。それはなぜか？おそらくほとんどの方と同じで、「晴れの国・岡山」は災害の少ないところ、災害の起きにくいところだと心の奥底では思っているに他ならないと思います。

前回のユーホームだよりで、「住宅の簡易耐震診断を無料で承ります！」と書きました。防災に関しあまり興味のない皆様に向けて、少しでも関心を持っていただくとの思いでした。お届けし始めてから我に返り青ざめました。もしたくさんの申し込みがあったらどうしよう？ほとんどの時間を無料耐震診断に費やさなければならなくなるかも？しかし、その思いは取り越し苦労に終わりました。『ユーホームだより』をお届けしている八百数十軒の中で、耐震診断のお申し込みをいただいたお客様は、な、なんと！！「0」でした。

お客様の心理を分析してみます。

- 無料でしてもらうのはなんとも厚かましい感じがして心苦しい。
- 無料なら耐震診断はしたいが、家の隅々まで押入の中まで見られるのならそれはいやだ。
- 無料と言ってはいるが、診断の結果耐震リフォームを進められるに違いない。進められたら断れないしなあ。
- このあたりでそんな大地震なんか起こるはずがない。
- たとえ大地震が起きても我が家が倒壊するはずがない。
- 地震なんかまるっきり興味がない。

この前テレビでバラエティー番組を見ていたら、住宅の耐震には耐力壁が重要だということを簡単な2階建ての模型を造り説明をしていました。

模型を載せている台を揺らします。倒壊しないことを確かめます。

次に「左側の面材」を取り外します。模型を揺らします。倒壊しません。

次に「右側の筋交い」を取り外します。模型を揺らします。簡単に倒れました。

司会者いわく、「ご覧の通り住宅には『筋交い』が非常に大切なことがわかりますね。」
「ええ〜〜!!」と思いました。

知識のあまりない人たちが、ただ不安をあおるだけの目的で番組を作ったら、こんなことになるんだなあと思って見ていました。この番組を見ていた人がおられたら、地震に対する耐力壁は単純に「合板の面材」はダメで「筋交い」が有効だと思ったことでしょう。

建築基準法施工例第 46 条及び建設省告示 1 1 0 0 号に「筋交い」や「面材」の耐力を壁倍率という数字で表示しています。専門家の間では「筋交い」の耐力が過大に評価されているのではないかと言われてきましたが、今回の熊本地震で証明される形となりました。

倒壊した多くの建物で筋交いが折れてしまったというケースが多く見受けられました。

筋交いに圧縮方向の力を加えると、内あるいは外に曲がろうとします。極限の力を加えると壁を破り破損してしまいます。逆に引っ張りの極限の力を加えるとちぎれてしまいます。また、昭和 5 6 年以前の建物（新耐震基準）の場合、今の

基準から見ると筋交いの仕口が非常にお粗末で、極限の圧縮あるいは引っ張りの力をかけると、いとも簡単に外れてしまうことが実験により確認されています。その点、面材は曲がりにくく折れたり外れたりしてしまうようなことはほとんどありません。

建物の安全とか耐震とかは一般の方にとって、良くわからない非常にとっつきにくい問題です。「まあ、このへんでは大きな地震は起きないだろう。」という思いに加えて、なんとも難しい耐震の考え方。このような状況で建物の安全について考えましょう、耐震診断しましょうと言っても、なかなか腰が重いのも無理からぬことです。

ちなみに、耐震改修には少し興味があるが、いったいいくらかかるのか見当もつかないので怖くて聞けないという人のために少しだけお知らせします。

住宅の大小・経過年数・状態・基礎の状況あるいは工事の内容や仕上げの程度などにより改修金額は大きく違ってきますが、全国のデータをみると 1 0 0 万円～1 5 0 万円（40 坪の建物）くらいが多くなっています。最近では多少見栄えは悪くても安全が第一だという考えのもと、低コスト工法も次々に開発されていますので、もし興味のある方はどうぞお気軽にお問い合わせください。

平成 2 8 年 1 2 月 5 日

